



長崎大学熱帯医学研究所市民公開特別講座



コウモリ



野ネズミから採血



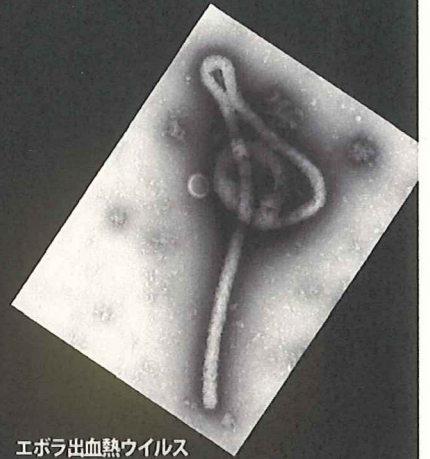
高田礼人 (たかだ あやと)

北海道大学
人獣共通感染症リサーチセンター 副センター長
同センター・国際疫学部 教授
北海道大学獣医学部研究科博士課程終了
東大医科研を経て現職

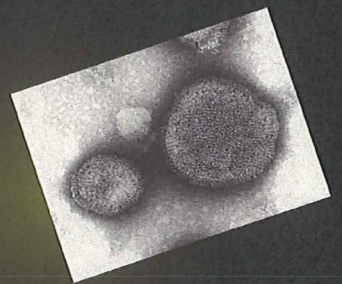
世界のウイルスの現場で研究を続ける注目の若手ウイルス学者。
日本人で唯一、エボラ出血熱ウイルスが潜む宿主となっている生物の
特定にアフリカ・ザンビアで挑んでいる。
情熱大陸(MBS)・爆笑問題のニッポンの教養(NHK)などに出演。

「人獣共通感染症」 ウイルスはどうやって生きのびているのか

近年、新しい感染症が次々と世界中で発生している。そのほとんどが、人にも動物にも感染する微生物によっておこる。「人獣共通感染症」である。その中から、インフルエンザウイルスとエボラ出血熱ウイルスについて、ウイルスの存続様式と進化について考えてみたい。



エボラ出血熱ウイルス



インフルエンザウイルス

平成22年 10月29日(金)
午後7時00分～午後8時30分
長崎市立図書館 新興善メモリアルホール
(〒850-0032 長崎市興善町1-1)

— 入場無料 —

お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 TEL.095-819-7813